

ISSN 1882-0468

ISSN-L 1882-0468

NDL 書誌情報ニュースレター

2019年4号(通号51号)

目次

書誌データからみた70年史(3)―雑誌記事索引 (逐次刊行物・特別資料課 田代篤史)	1
コラム:NCR2018 適用(1)書誌データの変更点 (収集・書誌調整課 書誌調整係)	10
お知らせ:『日本目録規則 2018年版』適用細則案を公開しました (収集・書誌調整課 書誌調整係)	20
お知らせ:「NDL 書誌データ検索シート」で JPRO 近刊情報が取得できるようになりました (収集・書誌調整課 書誌サービス係)	22

書誌データからみた70年史(3)―雑誌記事索引



【はじめに】

「雑誌記事索引」は、国立国会図書館（NDL）が収集・整理した、主として国内刊行和文雑誌から、固有の論題をもつ記事を採録しデータベース化したものです。開館翌年の1949年に提供を開始し、2019年に70周年を迎えました。当初は冊子体で、その後データベースへと形を変えながら、わが国の学術文献などへのアクセスツールとして広く普及しています。採録誌数480誌、年間採録件数6万件で始まり、2019年10月末現在、採録誌総数は約2万4000誌（廃刊・採録中止を含む）、収録記事数合計は1330万件を超えています。

本稿では、「雑誌記事索引」の70年を採り上げるにあたって、まずその現状を簡単に説明します。つぎに、その成り立ちや歩みを振り返り、最後に、[「国立国会図書館書誌データ作成・提供計画2018-2020」](#)（PDF: 386KB）（2018年3月策定）をふまえた、電子情報（オンライン資料）へのアクセス強化に関する最近の取組みを紹介します。

1. 「雑誌記事索引」の現状

まず「雑誌記事索引」の採録対象となる雑誌（採録誌）の選定、その雑誌に掲載された各記事の採録、「雑誌記事索引」の提供の現状について簡単に説明します。

(1) 採録誌の選定

2019年10月末現在、採録中の雑誌は1万934誌を数え、すでに廃刊・採録中止となった1万3257誌を含めると、採録誌の総数は2万4191誌にのぼります[1]。そのすべてのタイトルは、[「雑誌記事索引採録誌一覧」](#)で公開しています。

採録誌は、紙媒体またはパッケージ系電子出版物の形態で刊行された国内刊行和文雑誌（一部外国刊行和文雑誌・国内刊行欧文雑誌を含む）を対象に、[「雑誌記事索引採録誌選定基準」](#)に照らして選定しています。新たに刊行されNDLが収集・整理した雑誌については、年に3回程度選定作業を行っています[2]。また、採録誌に選定してほしいというご要望についても、併せて検討しています。

(2) 記事の採録

採録誌に選定された雑誌において採録対象とした各号から、[「雑誌記事索引記事採録基準」](#)に基づき、選択的に掲載記事を採録しています。たとえば、「3ページ以上にわたる記事を採録する」などの基準があります。平成30

年度には、約 34 万 5000 件の記事を採録しました。

各記事の採録データ（以下、「記事書誌」）は、全国書誌データなどと同じく、MARC 21 フォーマットに準拠しています。データ形式、提供する項目などは、「[雑誌記事索引データ項目一覧](#)」(PDF: 426KB) のとおりです。各項目は、記事本体を情報源として入力しています[3]。

記事書誌の作成にあたっては、図 1 のように、当該記事の掲載誌の書誌（以下、「雑誌書誌」）、当該記事の掲載号の書誌（以下、「巻号書誌」）、記事書誌の間でリンクし、階層構造を形成します[4]。[国立国会図書館検索・申込オンラインサービス](#)（[国立国会図書館オンライン](#)）では、図 2 のとおり、この構造が反映されています。

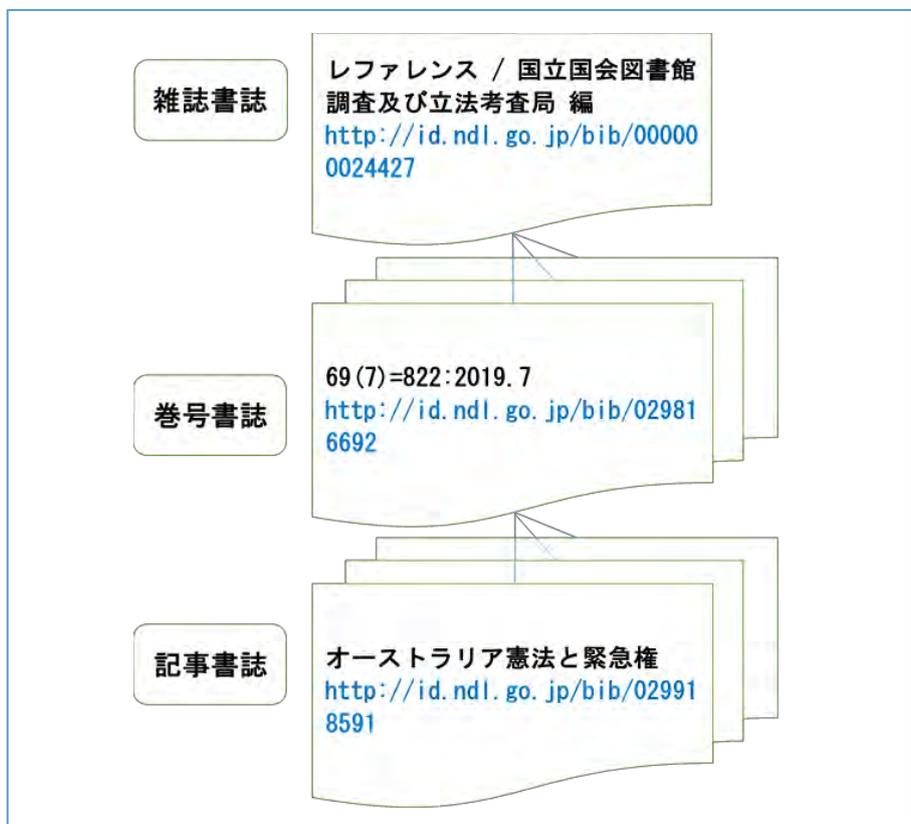


図 1 雑誌書誌、巻号書誌と記事書誌の階層構造



図2 国立国会図書館オンラインに見る雑誌書誌、巻号書誌と記事書誌の階層構造

(3) 「雑誌記事索引」の提供

作成した記事書誌は、図3のとおり各種のサービスを通じて提供しています。

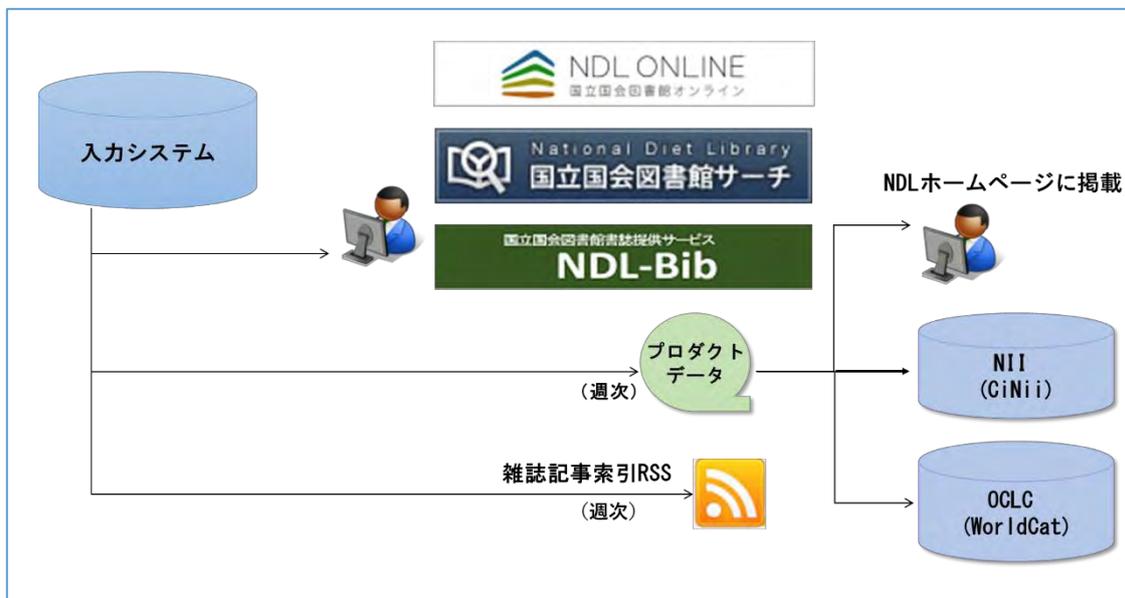


図3 「雑誌記事索引」の提供

国立国会図書館オンラインでは、記事書誌の検索により、雑誌記事の閲覧・遠隔複写申込みを可能にしています。

[国立国会図書館サーチ](#)では、さまざまな外部提供インタフェース (API) によって記事書誌を利用することができます。

[国立国会図書館書誌提供サービス \(NDL-Bib\)](#) [5]では、記事書誌を MARC タグ形式により確認することができ、また各種の形式によりダウンロードすることができます。

NDL ホームページ「[雑誌記事索引データ](#)」では、2019年4月から、記事書誌のプロダクトデータ（頒布用のデータ）を MARCXML フォーマットで提供しています。原則として毎週水曜日に、前週に作成した記事書誌を掲載しており、無償でご利用いただけます。このプロダクトデータは、国立情報学研究所（NII）の [CiNii Articles](#) および OCLC の [WorldCat](#) にも提供しており、それぞれにおいて検索可能となっています。

また、「雑誌記事索引」採録誌の新着号の記事情報を得られるよう、採録誌ごとに [RSS 配信するサービス](#) を提供しています。

このように「雑誌記事索引」は、幅広いニーズにお応えできるよう、さまざまなサービスを通じて提供しています。

2. 「雑誌記事索引」の70年

「雑誌記事索引」70年の歩みについて、以下に年表の形でまとめました。この表を基に、概略を説明します[6]。

1949年2月	『雑誌記事索引』の刊行を開始（冊子体）
1950年	「自然科学編」・「人文科学編」に分離（1965年「科学技術編」・「人文・社会編」に改題。1979年から1984年まで「医学・薬学編」も刊行）
1975年	冊子体のコンピュータ編集開始
1984年	データベース構築、オンライン情報検索システム提供開始
1992年	文部省学術情報センター（現・国立情報学研究所）のNACSIS-IRを経由した提供開始
1994年	CD-ROMによる提供開始
1996年	冊子体の刊行終了（本格的なデータベース化への移行） 採録誌を3100誌から9000誌に順次拡大（2000年まで）
1998年	全面的なオンライン入力に移行（1999年入力作業の一部外部委託開始）
2002年10月	NDL-OPACによるオンライン提供開始（記事書誌は約592万件）
2005年	CD-ROMによる提供終了
2007年	PORTA（現・国立国会図書館サーチ）による一部提供開始
2008年3月	「国立国会図書館の書誌データの作成・提供の方針（2008）」の策定
12月	雑誌記事索引新着情報のRSS配信サービス開始
2009年3月	冊子体で提供したデータの遡及入力終了（NDL-OPACでの全件検索の実現）

2010年8月	国立国会図書館サーチ（開発版）による提供開始
11月	記事書誌件数1000万件突破
2011年12月	MARC 21 フォーマットに準拠したデータ形式での入力開始
2012年1月	MARC 21 フォーマットに準拠したプロダクトデータ提供開始 NDL-OPAC リニューアル パッケージ系電子資料および児童誌の採録開始
2013年2月	「国立国会図書館の書誌データ作成・提供の新展開（2013）」の策定
12月	OCLC の WorldCat への提供開始
2018年1月	国立国会図書館オンライン、NDL-Bib による提供開始（NDL-OPAC 終了）
3月	「国立国会図書館書誌データ作成・提供計画 2018-2020」の策定（PDF: 518KB）
7月	国立国会図書館デジタルコレクションとの連携のためのデータ整備（オンライン資料の永続的識別子の記録）の開始
2019年4月	NDL 書誌データのオープン化により雑誌記事索引データの無償提供開始（PDF: 1MB）
11月	「雑誌記事索引データ（オンライン資料編）」の提供開始

表 「雑誌記事索引」70年の歩み

(1) 1990年代前半まで—「雑誌記事索引」の誕生からデータベース化の開始

この連載の初回「[書誌データからみた70年史\(1\) 一年表](#)」(PDF: 1MB) に述べているとおり、NDLの書誌作成・提供業務は、1948年の「ダウンズ報告書」の勧告に沿った方針に基づいて開始しました。この勧告では、逐次刊行物を利用するためのツールとして索引が必要であるとされました。これに基づき「雑誌記事索引」は、1949年2月に冊子体による刊行を開始しました。この第1巻1号は、NDL開館3か月後の1948年9月受入れ分を収録しています（採録誌数480誌）。当初の年間採録件数は約6万件でした。

以降、営々と「雑誌記事索引」の作成と冊子体による提供を継続し、1984年にはデータベース化を開始しました。当初このデータベースは館内事務用でしたが、後にオンライン情報検索システムによって、国会関係、都道府県立などの図書館、行政・司法各部門の支部図書館などに接続されました。また、1992年、文部省学術情報センター（現・国立情報学研究所）に対して磁気テープの形でデータベースを提供し、NACSIS-IR（当時）によって大学図書館などでも利用されるようになりました。さらに、1994年にはCD-ROMによる提供を開始し、オンライン提供を受けていない図書館などでもデータベースとして利用できるようになりました。

(2) 1990年代後半から2000年代まで—本格データベース化、オンライン処理システム開発、インターネットによる提供

現在の採録誌の選定範囲や業務体制に至る画期となったのは、1996年からの一連の業務改革です。その最大の目的は、採録誌を増やすことでした。昭和50年代から雑誌の創刊が増加し、より多くの雑誌を採録してほしいというニーズに応える必要が生じていたのです。

まず1996年、コンピュータの性能向上と先に述べたデータベース化によるデータ蓄積を基に、冊子体（「科学技術編」・「人文・社会編」）による提供を中止しました。電子的な提供にシフトしたことにより、作業工程を簡素化することができました。同時に、各記事に対する分類記号の付与を中止しました。

そして1998年、資料の受入れからデータ入力・校了に至るまで、全作業工程のオンライン処理システム化を実現しました。作業効率は飛躍的に向上し、作業時間が大幅に短縮されました。

翌1999年からは入力作業の一部において外部委託を導入し、記事書誌作成件数の大幅な増大を可能とする業務体制を構築しました。

これら一連の業務改革の成果により、それまでは主に学術誌を対象にしていた採録誌の選定は、1996年から2000年まで段階的に、一般誌、調査・研究に有用な雑誌、紀要類などにも範囲を拡大することができました。その結果、採録誌数は、1995年の約3100誌から2000年には約9000誌へと飛躍的に増加しました（2019年10月末現在、採録中の雑誌は1万934誌[7]）。平成11年度の記事書誌作成件数は、約33万件に達しました（平成30年度は約34万5000件）。

さらに、このようにして大量の蓄積を有するに至った「雑誌記事索引」は、1990年代後半から急速に普及したインターネットにより、その提供において画期的な進展を遂げました。すなわち、2002年10月に国立国会図書館蔵書検索・申込システム（NDL-OPAC）が稼働を開始し、図書や雑誌など他の書誌データとの統合的なデータベースで「雑誌記事索引」約540万件が公開されたのです[8]。インターネットを通じて必要な資料を容易に特定できるようになり、さらに、「雑誌記事索引」データから遠隔複写（館外からの複写）申込みが可能となりました。

以上、1990年代後半から2000年代前半にかけての「雑誌記事索引」の本格的なデータベース化、オンライン処理システム開発と採録誌数の飛躍的な増大、インターネットによる提供という一連の成果は、現在の「雑誌記事索引」の原型となったといえます。

また、上記の間にも、冊子体により提供していた過去の記事書誌の遡及入力を継続していましたが、2009年3月に完了し、NDL-OPACで「雑誌記事索引」の全件が検索できるようになりました。そして、翌2010年11月には、「雑誌記事索引」の記事書誌件数が1000万件を突破しました[9]。

(3) 2008年から2018年当初まで—インターネットによるさまざまな提供手段の展開

2008年3月にNDLは「[国立国会図書館の書誌データの作成・提供の方針（2008）](#)」（PDF: 43KB）を策定しました。これは、情報環境の著しい変化に対応すべく、おおむね5年を対象期間として、NDLの書誌データに関する業務およびサービスの方向性を定めたものです。この方針のうち書誌データ提供改善の具体策の一つとして、「雑誌記事索引の新規作成記事情報の提供」が示されており、これに基づき同2008年12月に雑誌記事索引新着情報のRSS配信サービスを開始しました。

また、その前年の2007年には、国立国会図書館デジタルアーカイブポータル（PORTA）から、「雑誌記事索引」

の提供を開始しました。2010年8月には、PORTAの後継サービスである国立国会図書館サーチ（開発版）での提供を開始しました。そして、現在では国立国会図書館サーチのさまざまなAPIによる機械連携で記事書誌を利用できるようになっています。

2011年末から2012年初にかけては、全国書誌データなどと同時に、記事書誌の入力および提供のデータフォーマットを、事実上の国際標準といえるMARC 21フォーマットに準拠するよう変更しました。

NDL-OPACのリニューアルも同時に行われ、記事書誌を含む書誌データのダウンロードにあたっては、MARC形式など複数の形式を選択できるようになりました。2018年1月の国立国会図書館オンライン稼働に伴うNDL-OPAC廃止により、現在この機能は[NDL-Bib](#)に継承されています。

このように提供手段が展開する一方で、「雑誌記事索引」に有力な提供先が加わりました。OCLCのWorldCatです。これは、2013年2月に策定した「[国立国会図書館の書誌データ作成・提供の新展開（2013）](#)」（PDF: 594KB）（以下、「新展開2013」）において、NDLの書誌データの国際的流通を一層促進すると述べていることによります。「雑誌記事索引」は2013年12月[WorldCat](#)への提供を開始し、現在は週次でプロダクトデータを提供しています。

3. 電子情報へのアクセス強化に関する最近の取組み

NDLは、「新展開2013」の次なる計画として、2018年3月「[国立国会図書館書誌データ作成・提供計画 2018-2020](#)」（PDF: 386KB）を策定しました。この計画は、平成30年度からの3年間を対象期間として、NDLの書誌データ提供の強化と、そのための書誌データ作成基盤の整備を進めることを目的としています。その中で、有形資料と電子情報の書誌データ管理を一元化する視点から、「雑誌記事索引の拡充」として、「電子情報と雑誌記事索引とのアクセス強化」と「電子情報からの採録と提供の実施」の2点を挙げています。以下では、これらの取組みの進捗についてご紹介します。

(1) 電子情報と雑誌記事索引とのアクセス強化

「雑誌記事索引」から[国立国会図書館デジタルコレクション](#)（デジコレ）のオンライン資料（電子雑誌）へのアクセスを実現するため、2018年8月までに、「雑誌記事索引」の記事書誌と、2017年末までに収集しデジコレに提供しているオンライン資料とを照合して、「雑誌記事索引」の記事書誌IDおよびオンライン資料の永続的識別子を相互に記録する作業を行いました。その数は732誌19万8485記事となりました。さらに2018年分のオンライン資料についても作業を行ったことにより、オンライン資料にリンクしている記事書誌は累計21万件を超えています。今後も、定期的にオンライン資料の永続的識別子の追加を行っていきます。

この作業によって、対象記事については、国立国会図書館オンラインおよび国立国会図書館サーチの検索結果からデジコレに遷移し、コンテンツを閲覧できるようになりました。図4は、国立国会図書館オンラインにおいて、「雑誌記事索引」からデジコレのオンライン資料への遷移を示した一例です[10]。

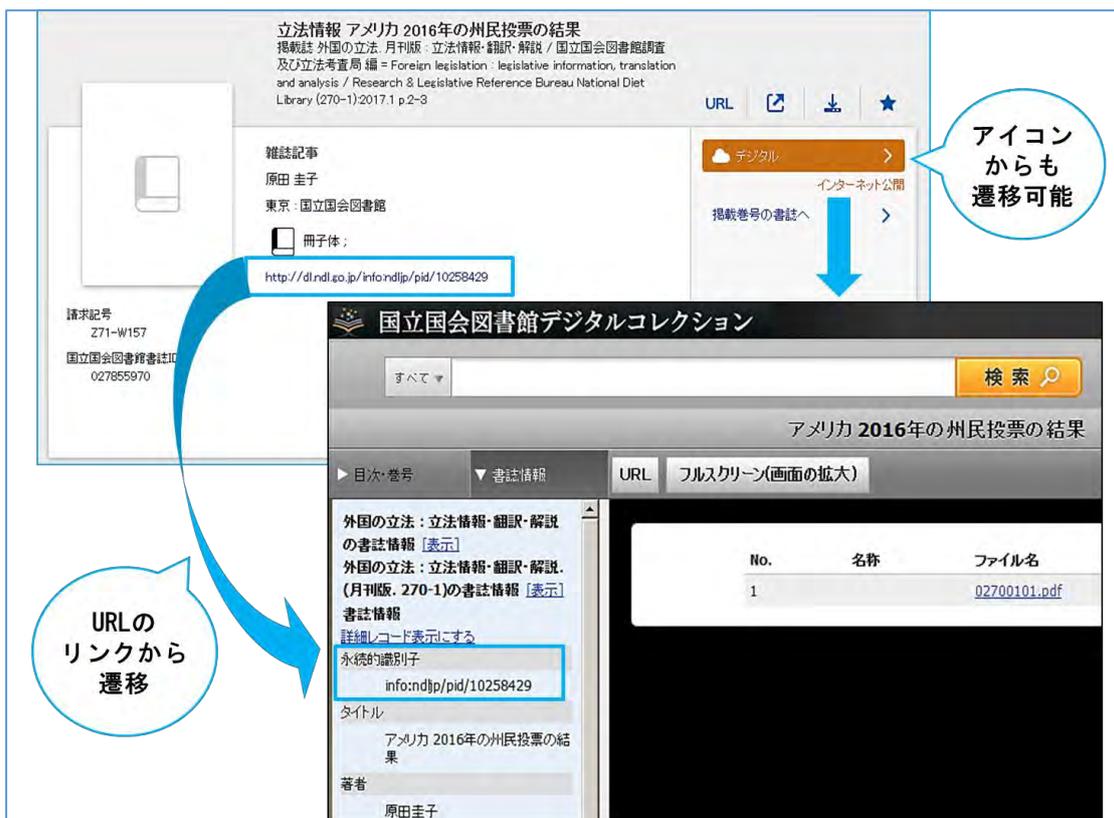


図4 国立国会図書館オンラインからデジコレへの遷移の一例

また、NDL-Bib から、該当するオンライン資料の永続的識別子を含む記事書誌のダウンロードが可能となっています。この永続的識別子は、MARC 21 フォーマットでは、フィールド 856（電子資料アクセス情報）に表示されず（2019年12月現在、プロダクトデータには含まれません）。

(2) 電子情報からの採録と提供の実施

紙媒体による刊行を中止し、インターネットなどを通じた刊行に媒体変更した電子雑誌は、今や多数にのぼります。「雑誌記事索引」は、紙媒体などの有形資料を採録対象としていますが、このような電子雑誌への取組みがかねてから課題となっていました。

この取組みの一つとして、NDL が収集したこれらオンライン資料の記事について、2019年11月27日から、「[雑誌記事索引データ（オンライン資料編）](#)」として、プロダクトデータの提供を開始しました。「[雑誌記事索引データ](#)」のページに並べて掲載しています。初回は、51誌、6167件の記事書誌を提供しました。今後の更新頻度はおおむね半年を予定しています。オンライン資料編の[採録誌一覧（PDF：323KB）](#)や[データ項目（PDF：321KB）](#)も併せて掲載しています。

【おわりに】

「電子情報からの採録と提供の実施」に関する取組みとしては、さらにボーンデジタルで（創刊号からオンラインのみで）刊行される電子雑誌の「雑誌記事索引」への採録について検討を行い、その提供を目指すこととし

ています。今後、ポーンデジタルの特徴をふまえた記事書誌の作成方法などの具体的な検討を行う予定です。

「雑誌記事索引」へのご期待は、毎日の業務の中で強く感じているところです。2019年4月には、「雑誌記事索引」を含め [NDL が提供する書誌データをどなたでも無償でご利用いただけるようになりました \(PDF: 1MB\)](#)。先人たちが70年にわたって積み上げてきた貴重な遺産を継承し、時代に即して発展させ、より一層ご利用いただけるよう努力していきます。

田代 篤史

(たしろ あつし 逐次刊行物・特別資料課)

- [1] 2019年10月30日現在。なお、NDLの雑誌(日本語)書誌は、平成30年度末累計で約17万件。国立国会図書館収集書誌部。 “統計からみた書誌データ(平成28年度以降)”, https://www.ndl.go.jp/jp/data/basic_policy/statistics/FY2016-.html, (参照2019-10-30) .
- [2] 継続的に刊行・納本されている雑誌を対象とするため、選定作業は第1号の収集・整理の後ではなく、第2号以降の状況を確認した上でやっている。
- [3] 過去には、情報源を目次としたり、記事本体と目次とを使い分けたりしていたことがある。
- [4] 記事書誌同士には階層関係を設けていない。また、後述する記事書誌のプロダクトデータでは、雑誌書誌の書誌IDのみ提供している(MARC 21フォーマットでは、フィールド773(掲載雑誌名等)のサブフィールド\$w(書誌ID)に記録)。巻号書誌の書誌IDは提供していない。
- [5] 2020年12月終了予定。
- [6] 「雑誌記事索引」の成り立ちから平成19年度までの歴史についてまとめたものとしては、年代ごとに主に以下の文献を参照した。
“第4項 雑誌記事索引”. 国立国会図書館五十年史編纂委員会. 国立国会図書館五十年史 本編. 1999, p. 566-571.
逐次刊行物部索引課. 雑誌記事索引の業務改革 一九九四年～二〇〇〇年. 国立国会図書館月報. 1999, (464), p. 2-18.
書誌部逐次刊行物課. 特集 書誌調整, 雑誌記事索引のご紹介. 国立国会図書館月報. 2008, (564), p. 7-12.
http://dl.ndl.go.jp/view/download/digidepo_1001139_po_geppo0803.pdf?contentNo=1#page=11, (参照2019-10-30).
特に「雑誌記事索引の成り立ち」(p. 10)を参照した。
- [7] 脚注2を参照。
- [8] 書誌部書誌調整課. 「NDL-OPAC」912万件を一挙公開. 全国書誌通信. 2002, (113), p. 1-4, http://dl.ndl.go.jp/view/download/digidepo_8723852_po_113.pdf?contentNo=1, (参照2019-10-30) .
当時は、「雑誌記事索引」がNDL-OPAC 収載データの約6割を占めていた。
- [9] 収集書誌部. 国立国会図書館「雑誌記事索引」の記事件数が1,000万件を突破. カレントアウェアネス-E. 2010, (184), <https://current.ndl.go.jp/e1126>, (参照2019-10-30).
- [10] オンライン資料が記事の単位で作成されている例。ほかに、巻号の単位で作成されている場合がある。この場合、オンライン資料の永続的識別子は巻号に対して割り当てられているため、記事書誌とオンライン資料は多対1の関係となる。また、国立国会図書館オンラインの画面の「デジタル」アイコンの表示はない。

コラム:NCR2018 適用(1) 書誌データの変更点

【はじめに】

国立国会図書館 (NDL) は、2021年1月から『[日本目録規則 2018年版](#)』(以下、「NCR2018」)の適用を開始します。2021年1月以降も引き続き、記録フォーマットはMARC 21を採用し、『[JAPAN/MARC MARC21 フォーマット](#)』による全国書誌データの提供を行います。NCR2018適用に伴い、使用するMARCタグの追加や運用の変更が生じます。このコラムでは、「JAPAN/MARC MARC21 フォーマット」における書誌データ・典拠データの変更点のうち、おもなものをご紹介します[1]。第1回は、書誌データです。

NDLにおけるNCR2018の適用の詳細は、「国立国会図書館『[日本目録規則 2018年版](#)』適用細則(2021年1月)」(以下、「NCR2018適用細則」)およびNDLで定める各種基準類で示します。NDLホームページ『[『日本目録規則 2018年版』\(NCR2018\)について](#)』では、2019年10月から、以下の「NCR2018適用細則」案および基準案を公開しています。

●NCR2018適用細則(案)

- ・「第1部 総説」「第2部 セクション1 属性総則」
- ・「第2部 セクション2 著作、表現形、体現形、個別資料」(図書、非図書資料、逐次刊行物)
- ・「付録A.2 大文字使用法、A.3 略語使用法」

●基準(案)

- ・文字の取扱い基準
- ・読みの基準

2020年1月には、NCR2018「第3部 関連」および「付録C.1、C.2、C.4」適用細則案や、アクセス・ポイントに関する選択・形式基準案のほか、NCR2018適用に伴い新規追加や運用変更が生じるMARCタグの一覧を公開する予定です。NCR2018適用に伴う「JAPAN/MARC MARC21 フォーマット」の変更内容の詳細は、そちらをぜひご確認ください。

この記事では、以下の形で、タグおよびデータ例を示します。また、本文中、#で始まる番号でNCR2018の条項番号を示し、見出しの丸がっこ内に対応する「JAPAN/MARC MARC21 フォーマット」のフィールド識別子またはフィールド名を記載しています。

●凡例

- ・フィールド識別子：数字3桁で示す。
- ・インディケータ：第1インディケータ、第2インディケータそれぞれを数字1文字で示す。データ例中では数字2桁で示す。
- ・サブフィールド識別子：サブフィールド開始文字を「\$」で、サブフィールド識別文字をアルファベットまたは数字1文字で示す。

- ・空白：インディケータおよびコード中の空白は「#」で、区切り記号上の空白は「□」で、それ以外の空白は「△」で示す。

1. 適用対象など

NCRの適用対象、JAPAN/MARC (M/S)の収録対象には、大きな変更点はありません。区切り記号の運用に若干の変更があります。

(1) NCR2018の適用対象

NCR2018の適用対象は、NDLが現在、『日本目録規則1987年版改訂3版』(以下、「NCR87R3」)を適用している資料群です[2]。具体的には、和図書および国内刊行洋図書、和および国内刊行洋の単行の非図書資料[3]、和および洋の逐次刊行物[4]などです。

2021年1月以降に新規作成する書誌データを適用対象とし、原則として、2020年12月以前に作成された書誌データに遡ってNCR2018を適用することはいきません[5]。なお、2021年1月以降に作成された書誌データは、040\$a (目録規則)にNCR2018を表すコード「ncr/2018」を記録し、NCR2018適用対象であることを表現します[6]。

(2) JAPAN/MARC (M/S)の収録対象

NCR2018適用対象のうち、全国書誌データである [JAPAN/MARC \(M/S\)](#) の収録対象は、これまでどおり国内で発行された出版物および外国で発行された日本語出版物の書誌データです。対象となる出版物の種類には、図書、単行の非図書資料、逐次刊行物が含まれます。外国刊行洋逐次刊行物は、NCR2018の適用対象ですが、JAPAN/MARC (M/S)の収録対象ではありません。

(3) 区切り記号

2021年1月以降も、[国際標準書誌記述 \(ISBD\)](#)に基づく区切り記号を運用します。ただし、フィールド末尾の区切り記号(ピリオド)は、省略します。JAPAN/MARC (M/S)のレコードラベル部(Leader)の記述目録形式(文字位置18)は、これまでどおり“i”(ISBD(区切り記号を含む))を記録します。

2. レコードラベル部 (Leader)

レコードラベル部の変更点は、次のとおりです。

(1) 書誌レベル (文字位置 07)

現行運用しているコード“m”(単行資料)、“s”(逐次刊行資料)に加え、ページを差し替えることにより更新される加除資料などに対し、“i”(更新資料)の運用を開始します。

(2) リンクレコード要求仕様 (文字位置 19)

現行は、常に“#”(適用しない)を記録していますが、2021年1月以降、図書および単行の非図書資料の複数巻単行資料で包括的記述をする場合、“a”(包括的記述)を記録します。なお、NCR2018適用後は、名称を「リン

クレコード要求仕様」から「複数巻単行資料レコードレベル」に変更する予定です。

3. #2.1 タイトルおよび#2.2 責任表示 (245)

#2.1 タイトルと#2.2 責任表示に関する事項を記録する 245 フィールドの変更点は、次のとおりです。

- 逐次刊行物について、第2インディケータの値に0~9を運用します（現行は“0”（排列無視文字なし）のみ運用）。第2インディケータの値は、冠詞などの、タイトルの先頭にある文字で、ソートや検索インデックス生成の際に無視できる文字数を指します（例：「The△」の場合、“4”）。これに伴い、222（キー・タイトル）の第2インディケータも同様の運用とします。
- サブフィールド\$h（資料種別）は記録しません。資料種別に代わり、表現種別、機器種別、キャリア種別を記録します（「4. #5.1 表現種別（336）、#2.15 機器種別（337）、#2.16 キャリア種別（338）」を参照）。
- 記録対象資料に総合タイトルがなく、資料の内容をなす各著作のタイトル等が表示されており、次の(1)(2)のいずれかに該当する場合、NDL独自のサブフィールド\$t、\$rを運用します。

(1) 責任表示が各著作に共通しており、かつ異なるタイトル関連情報や巻次がある場合

(2) 各著作の責任表示が異なる場合

現行は、2番目以降の本タイトルとタイトル関連情報、巻次、責任表示を、同一フィールド内の最後のサブフィールド（主に\$c（責任表示））に区切り記号で連結した形で JAPAN/MARC（M/S）に出力していますが、2021年1月以降に作成・更新されるデータでは、2番目以降の本タイトルとタイトル関連情報、巻次をサブフィールド\$tに、2番目以降の責任表示を\$rに繰り返して出力します。

【2020年12月以前】	【2021年1月以降】
245 00 \$6 880-01	245 00 \$6 880-01
\$a 最後の一枚の葉□/	\$a 最後の一枚の葉□/
\$c オー・ヘンリー□著□;□結城浩,□枯葉,□ 荒木光二郎□訳.□賢者の贈り物□/□ オー・ヘンリー□著□;□結城浩,□枯葉,□ 荒木光二郎□訳.□フランダースの犬□/□ ウィーダ□著□;□結城浩,□枯葉,□荒木光 二郎□訳.	\$c オー・ヘンリー□著□;□結城浩,□枯葉,□ 荒木光二郎□訳.
	\$t 賢者の贈り物□/
	\$r オー・ヘンリー□著□;□結城浩,□枯葉,□ 荒木光二郎□訳.
	\$t フランダースの犬□/
	\$r ウィーダ□著□;□結城浩,□枯葉,□荒木光 二郎□訳

2番目以降の本タイトルとタイトル関連情報、巻次、責任表示を、245の最後のサブフィールドに連結して記録

2番目以降の本タイトルとタイトル関連情報、巻次を\$tに、2番目以降の責任表示を\$rに繰り返して記録

図1 245\$t、\$rの記録例

なお、NCR2018では、責任表示（名称および役割を示す語句）は、情報源のとおり転記することとしています。しかし、NDLでは、従来の書誌データとの連続性を考慮し、情報源に記載された責任表示（名称および役割を示す語句）が日本語の場合、情報源の表示の順序に関わらず、名称、役割を示す語句の順に、間にスペースを挿入して記録します。ただし、情報源に役割を示す語句が表示されていない場合、現在は角がっこを使用して役割を示す語句を補記していますが、2021年1月以降は、その役割を明らかにする必要のあるときを除き、補記は行いません。

[例] 野坂昭如□文 （情報源の表示：文 野坂昭如）

4. #5.1 表現種別 (336)、#2.15 機器種別 (337)、#2.16 キャリア種別 (338)

NCR2018で新たに設けられたエレメント[7]の#5.1 表現種別、#2.15 機器種別、#2.16 キャリア種別を、336、337、338 フィールドに記録します。#5.1 表現種別は、「テキスト」、「楽譜」など、知的・芸術的内容を表現する基本的な形式を、#2.15 機器種別は、「コンピュータ」、「オーディオ」など、資料を利用するために必要な機器の種類を（機器を用いない場合は「機器不用」）、#2.16 キャリア種別は、「冊子」、「オーディオ・ディスク」など、資料の記録媒体とその形状を示します。それぞれ、サブフィールド\$aにはNCR2018で規定された語句を、\$2には情報源を示すコードを記録します。

【2020年12月以前】		【2021年1月以降】	
245 00	\$6 880-01 \$a 稼ぐビッグデータ・IoT技術徹底解説 \$h [電子資料]□: \$b 日立製作所×日経エレクトロニクス□/ \$c 日経エレクトロニクス□編.	245 00	\$6 880-01 \$a 稼ぐビッグデータ・IoT技術徹底解説□: \$b 日立製作所×日経エレクトロニクス□/ \$c 日経エレクトロニクス□編集
256 ##	\$a テキスト・データ.		
260 ##	\$6 880-02 \$a 東京□: \$b 日経BP社, \$c c2014.	264 #1	\$6 880-02 \$a 東京□: \$b 日経BP社, \$c [2014]
300 ##	\$a CD-ROM□1枚□; \$c 12cm	300 ##	\$a CD-ROM□1枚□; \$c 12△cm
		336 ##	\$a テキスト \$2 ncrcontent
		337 ##	\$a コンピュータ \$2 ncrmedia
		338 ##	\$a コンピュータ・ディスク \$2 ncrcarrier

図2 #5.1 表現種別 (336)、#2.15 機器種別 (337)、#2.16 キャリア種別 (338) の記録例

5. #2.5~#2.9 出版表示、制作表示等 (264)

NCR87R3の「出版・頒布等に関する事項」は、NCR2018では#2.5~#2.9「出版表示、制作表示等」(以下、「出版表示等」)となり、記録するフィールドが260から264に変わります。260フィールドで頒布者等を記録する場合、260\$bの値の末尾に「(発売)」などの語句を記録して表していましたが、264では第2インディケータで出版、頒布等の種類を表現することができ、機械可読性が向上します。264のインディケータは、以下のとおりです。

- 第1インディケータ (260と同様)
 - # : 非適用または最初の出版表示等
 - 2 : 中間の出版表示等 (逐次刊行資料でのみ使用)
 - 3 : 最新または最後の出版表示等 (逐次刊行資料でのみ使用)
- 第2インディケータ
 - 0 : 非刊行物の制作
 - 1 : 出版
 - 2 : 頒布
 - 3 : 製作
 - 4 : 著作権日付 (264\$cのみを記録)

【2020年12月以前】				【2021年1月以降】			
260	##	\$6	880-02	264	#1	\$6	880-02
		\$a	東京□:			\$a	東京□:
		\$b	ダイヤモンド・ビッグ社□;			\$b	ダイヤモンド・ビッグ社,
		\$a	東京□:			\$c	2019.1
		\$b	ダイヤモンド社△(発売),	264	#2	\$6	880-03
		\$c	2019.1.			\$a	東京□:
						\$b	ダイヤモンド社

第2インディケータで表現
 0 : 非刊行物の制作
 1 : 出版
 2 : 頒布
 3 : 製作
 4 : 著作権日付

図3 #2.5~#2.9 出版表示等 (264) の記録例

書誌データに出現する一つ目の264フィールドには、原則としてサブフィールド\$a(出版地等)、\$b(出版者等)、\$c(出版日付等)をセットで記録します。二つ目以降の264フィールドに記録する場合、\$aと\$bは必ずセットで

記録しますが、\$cは単独で記録することもあります。

なお、2020年12月までに作成された逐次刊行資料の書誌データを2021年1月以降に更新して、変化後の出版表示等を記録する場合、260フィールドと264フィールドが併存することがあります。その場合、一つ目の260フィールドに\$a、\$b、\$cが存在します。

245	00	\$6	880-01		
		\$a	国立国会図書館月報□=		
		\$b	National△Diet△Library△monthly△bulletin		
246	21	\$a	National△Diet△Library△monthly△bulletin		
260	##	\$6	880-02		
		\$a	東京□:	← 2020年12月以前に記録した 初号の出版表示	
		\$b	国立国会図書館,		
		\$c	1961-		
264	22	\$6	880-03		
		\$a	東京□:	← 2021年1月以降に記録した 途中の頒布表示	
		\$b	有隣堂印刷		
264	32	\$6	880-04		
		\$a	東京□:	← 2021年1月以降に記録した 最新または最後の頒布表示	
		\$b	日本図書館協会		

図4 260と264が併存する場合の逐次刊行資料の書誌データ例

6. #2.14～#2.33 キャリアに関する情報 (3XX)

#5.1 表現種別 (336)、#2.15 機器種別 (337)、#2.16 キャリア種別 (338) 以外にも、キャリアに関する情報として、対応する MARC 21 タグに記録するものがあります。新たに追加するフィールド・サブフィールドは、以下のとおりです。それぞれ、NCR2018で規定する用語を用いて記録する場合には、同一フィールドのサブフィールド\$2に情報源を示すコードをあわせて記録します。

●#2.14～#2.33 キャリアに関する情報を記録する新規追加タグ (3XX)

- ・#2.19 基底材 (340\$a)
- ・#2.22 制作手段 (340\$d)
- ・#2.21 マウント (340\$e)
- ・#2.26 フォント・サイズ (340\$n)
- ・#2.27 極性 (340\$o)
- ・#2.29.1 録音の方式 (344\$a)
- ・#2.29.2 録音の手段 (344\$b)

- ・#2. 29. 3 再生速度 (344\$c)
- ・#2. 29. 6 テープのトラック構成 (344\$f)
- ・#2. 29. 7 再生チャンネル (344\$g)
- ・#2. 31. 1 ビデオ・フォーマット (346\$a)
- ・#2. 31. 2 テレビ放送の標準方式 (346\$b)
- ・#2. 32. 1 ファイル種別 (347\$a)
- ・#2. 32. 2 デジタル・コンテンツ・フォーマット (347\$b)

7. 創作者等に対する典拠形アクセス・ポイント (700/710/800/810)

従来の著者標目は、NCR2018 では創作者、非創作者、寄与者（以下、「創作者等」）に対する典拠形アクセス・ポイントとして記録します（#26. 1、#28. 1 典拠形アクセス・ポイントの構築、#44. 1 著作と個人・家族・団体との関連、#44. 2 表現形と個人・家族・団体との関連）。記録フィールドに変更はありませんが、資料と個人・団体との関連の詳細な種類を示すため、必要に応じてサブフィールド\$eに関連指示子を記録するようになります。関連指示子には、著者、訳者など、NCR2018「付録 C. 2 関連指示子：資料と個人・家族・団体との関連」に規定される語句のうちNDLが適用するもの、およびNDLが別途、規定する統制された語句を用います[8]。

【2020年12月以前】	【2021年1月以降】
245 00 \$6 880-01 \$a 走れメロス. \$n 上口/ \$c 太宰治□作□;□村上豊□絵.	245 00 \$6 880-01 \$a 走れメロス. \$n 上口/ \$c 太宰治□作□;□村上豊□絵
250 ## \$a 新装版	250 ## \$a 新装版
700 1# \$6 880-04 \$a 太宰,□治, \$d 1909-1948 \$0 00004693	700 1# \$6 880-04 \$a 太宰,□治, \$d 1909-1948 \$e 著者
700 1# \$6 880-05 \$a 村上,□豊, \$d 1936- \$0 00119732	700 1# \$6 880-05 \$a 村上,□豊, \$d 1936- \$e 挿絵者

図5 創作者等に対する典拠形アクセス・ポイントの記録例

8. 著作に対する典拠形アクセス・ポイント (730)、ジャンル・形式用語 (655)

2021年1月から、図書の一部について著作の典拠コントロールを開始します。著作の典拠コントロールは、タ

イトルが異なっても、内容が同一の著作であることを識別したり、同一タイトルで内容の異なる複数の著作が存在するときに、各著作を判別したりして、利用者に特定の著作を発見する手がかりを提供することを目的としています。NDLでは、まずは古典作品の翻刻や現代語訳、翻訳タイトルにバリエーションのある外国作品の日本語訳に該当する図書を対象に、730フィールドに著作のタイトル等を記録することにより、著作に対する典拠形アクセス・ポイントを構築します(#22.1 著作に対する典拠形アクセス・ポイントの構築、#42.4 体現形から著作への関連)。これによって、同一タイトルの古典作品が複数あっても、その翻刻や現代語訳を区別して検索したり、同一の外国作品の翻訳でタイトルが異なる著作をまとめて検索したりできるようになります。また、NCR2018との関連はありませんが、2021年1月からジャンル・形式用語の導入を開始し、655フィールドに記録します。導入開始当初は、「漫画」など限定された用語について運用します。

著作およびジャンル・形式用語の典拠形アクセス・ポイントは、典拠データとのリンクによって構築し、記録するサブフィールドや値の内容は、典拠データに対応します。著作およびジャンル・形式用語の典拠データについては、次回で詳しく述べます。

9. #43.1 著作間の関連 (76X-78X)

NCR87R3では、逐次刊行物の本タイトルの重要な変化等を注記として扱っていましたが、NCR2018では、著作間の関連として扱います。注記として記録する場合を除き、主として記入リンクブロック(76X-78X)に記録することに変更はありませんが、一部使用するフィールドを変更します。また、#43.1 著作間の関連の内容を示す関連指示子は、フィールド識別子やインディケータの値、注記内の導入句で表現します。そのため、NCR2018適用に伴い、フィールドの名称や注記内の導入句を一部変更します。

記録対象フィールドを変更するものは、次のとおりです。

(1) 上位のシリーズ／サブシリーズの関連

現在は、787フィールドのサブフィールド\$tに関連する資料のタイトル、\$wに書誌レコード管理番号を記録していますが、2021年1月以降、上位のシリーズの関連は760フィールド、サブシリーズの関連は762フィールドを使用することで、関連の種類を示します。2021年1月以降はNCR2018で規定する関連指示子にあわせ、760フィールドの名称を「上位シリーズ記入」から「上位のシリーズ」に、762フィールドの名称を「下位シリーズ記入」から「サブシリーズ」に変更する予定です。

(2) 付属／本体の関連

現在は、787フィールドのサブフィールド\$i(関連の種類に関する情報)に「付録誌」または「本体誌」の用語を記録するとともに、\$tに関連する資料のタイトル、\$wに書誌レコード管理番号を記録していますが、2021年1月以降は770フィールド、772フィールドを使用することで、関連の種類を示します。2021年1月以降はNCR2018で規定する関連指示子にあわせ、770フィールドの名称を「挿入誌又は付録誌記入」から「付属」に、772フィールドの名称を「本体誌記入」から「本体」に変更する予定です。

【2020年12月以前】		【2021年1月以降】	
245	00 \$a Neuropathology.	245	00 \$a Neuropathology
260	## \$a [Kyoto]□:□	264	#1 \$a [Kyoto]□:□
	\$b Japanese△Society△of△Neuropathology ,□		\$b Japanese△Society△of△Neuropathology ,□
	\$c 1993-		\$c 1993-
300	## \$a v.□;	300	## \$a 冊□;
	\$c 28cm.		\$c 28△cm
362	0# \$a v.△13,△no.△1□(1993)-	362	0# \$a v.△13,△no.△1□(1993)-
710	2# \$6 880-01	710	2# \$6 880-01
	\$a 日本神経病理学会		\$a 日本神経病理学会
	\$0 00533442		\$e 責任刊行者
787	0# \$i 付録誌		\$0 00533442
	\$t 日本神経病理学会総会学術研究会プログラ ム・抄録集.□	770	0# \$t 日本神経病理学会総会学術研究会プログラ ム・抄録集
	\$w 000000088922		\$w 000000088922

図6 付属の関連(770)の記録例

【おわりに】

これまでご紹介したとおり、NCR2018適用に伴い、新たに設けられたエレメントを記録するため、また、既存の書誌的事項に対応するエレメントであってもよりの確に表現するために、「JAPAN/MARC MARC21 フォーマット」で使用するフィールドが広がります。また、国際的な提供や他機関作成データとの相互運用性を考慮し、インディケータや情報源のコードとともに記録する統制された語句、関連指示子などを用いて、機械可読性の向上を図ります。

一方、NCR2018で転記するエレメントとされている責任表示について、NDLの適用においては2021年1月以降も、名称と役割を示す語句の順にスペースを挿入して記録することにするなど、これまでの書誌作成上の慣例を踏まえ、既存データとの連続性も考慮しました。

NCR2018適用後のJAPAN/MARC(M/S)が、国内の図書館をはじめとする多くの利用者の方々に、より一層便利に、幅広く活用されることを期待しています。

(収集・書誌調整課 書誌調整係)

脚注
 [1] NDLの書誌データ・典拠データは、JAPAN/MARC以外にも、国立国会図書館サーチや国立国会図書館検索・申込オンラインサービス(国立国会図書館オンライン)、国立国会図書館典拠データ検索・提供サービスからも、

DC-NDL (RDF) 形式や TSV 形式で取得することができますが、それらの形式の変更点については、本記事では取り扱いません。2021 年 1 月以降の書誌データ提供については、以下の本誌 2018 年 4 号 (通号 47 号) の記事もご参照ください。

収集・書誌調整課. おしらせ: システムリニューアルに伴う 2021 年 1 月以降の書誌データ提供方法の変更について (予告) .

http://dl.ndl.go.jp/view/download/digidepo_11193726_po_2018_4.pdf?contentNo=1#page=28, (参照 2019-09-10).

[2] 書誌データ作成の際に、NDL が適用している目録規則などは、以下をご参照ください。

国立国会図書館. “適用規則一覧” .

https://www.ndl.go.jp/jp/data/catstandards/applied_rules.html, (参照 2019-09-04).

[3] 非図書資料には、地図資料、録音資料、映像資料、有形の電子資料、その他の非図書資料 (マイクロ資料、楽譜 (綴じていないもの)、カード式資料、静止画像資料、点字資料) が含まれます。

[4] 現在、NCR87R3 を適用している外国刊行の洋逐次刊行物などは、NCR2018 適用細則では規定しませんが、同じく NCR2018 を適用予定です。

[5] ただし、逐次刊行資料などで、出版表示の変化等を記録するために、2020 年 12 月以前に作成された書誌データを更新する場合に、NCR2018 適用に伴う新規運用フィールド (264、336、337、338 など) を追加する場合があります。その場合であっても、書誌データ全体を NCR2018 適用細則にあわせて更新することはありません。

[6] なお、外部 MARC 由来のデータを使用して書誌データを作成する場合、情報源における表示を転記するフィールドについては、NDL の NCR2018 適用細則に沿っていないことがあります。

[7] 実体 (書誌データの利用者の主要な関心対象を表す単位) の属性および実体間の関連を記録する、データの構成単位を指します。

[8] NDL が適用する関連指示子の詳細は、「第 3 部 関連」および「付録 C. 1、C. 2、C. 4」適用細則案で公開します。

お知らせ:『日本目録規則 2018 年版』適用細則案を公開しました

国立国会図書館では、2021年1月からの『日本目録規則 2018 年版』の適用開始を目指し、その適用細則や関連する基準などの作成作業を進めています。2019年10月に、以下の適用細則および基準の案を公開しました。

- 『日本目録規則 2018 年版』適用細則 (2021年1月) (案)
 - 「第1部 総説」「第2部 セクション1 属性総則」
 - 「第2部 セクション2 著作、表現形、体現形、個別資料」(図書、非図書資料、逐次刊行物)
 - 「付録 A.2 大文字使用法、付録 A.3 略語使用法」
- 基準 (案)
 - 文字の取扱い基準
 - 読みの基準

なお、上記以外の適用細則および基準の案なども、順次、公開予定です。

詳しくは、以下のページをご覧ください。

日本目録規則 2018 年版 (NCR2018) について

<https://www.ndl.go.jp/jp/data/ncr/index.html>

また、本誌今号の「コラム : NCR2018 適用(1) 書誌データの変更点」では、『日本目録規則 2018 年版』適用に伴う「JAPAN/MARC MARC21 フォーマット」における書誌データの変更点について紹介しています。あわせてご覧ください。

(収集・書誌調整課 書誌調整係)

また、従来の「NDL 書誌データ取得・検索シート」が修正されました。古いバージョンでは、[国立国会図書館典拠データ検索・提供サービス \(Web NDL Authorities\) のシステム変更 \(PDF: 1.16MB\)](#) のため、著者名典拠の読みの情報などを取得する際に動作が停止してしまうことがありますので、修正版をご利用ください。従来のシートには次の3種類があります。

- ・NDL 書誌データ取得シート (図書の書誌データを ISBN を入力して取得)
- ・NDL 書誌データ検索シート (図書の書誌データをキーワードや NDC など検索して取得)
- ・NDL 雑誌検索シート (雑誌記事索引データをタイトルまたはキーワードで検索して取得)

今後も NDL サーチの仕様変更に合わせて随時最新版が公開される予定です。

この「NDL 書誌データ取得・検索シート」は、研修会などで「今後利用したい」という反応をいただいているものです。ぜひご活用ください。

(収集・書誌調整課 書誌サービス係)

脚注

- [1] 国立国会図書館. “「NDL 書誌データ取得・検索シート」の基本的な使い方”.
https://www.ndl.go.jp/jp/data/toolndl_manual.pdf, (参照 2019-10-2).
国立国会図書館. “「NDL 書誌データ検索シート」のカスタマイズマニュアル”.
https://www.ndl.go.jp/jp/data/toolndl_custom.pdf, (参照 2019-10-2).
2015年3号(通号34号) 吉村風. コラム: 書誌データ利活用(8)―「NDL 書誌データ取得・検索シート」の使い方とカスタマイズ その1―使い方.
http://dl.ndl.go.jp/view/download/digidepo_9496832_po_2015_3.pdf?contentNo=1#page=19, (参照 2019-10-2).
2015年4号(通号35号) 吉村風. コラム: 書誌データ利活用(9)―「NDL 書誌データ取得・検索シート」の使い方とカスタマイズ その2―カスタマイズ.
http://dl.ndl.go.jp/view/download/digidepo_9579118_po_2015_4.pdf?contentNo=1#page=38, (参照 2019-10-2).
- [2] 近刊情報について、詳しくは次のページをご覧ください。
国立国会図書館. “国立国会図書館サーチの API で近刊情報を利用できます”.
https://www.ndl.go.jp/jp/data/data_service/quickguide/pdf/kinkan.pdf (参照 2019-10-2).
国立国会図書館. “出版情報登録センターとの連携強化による機能改善のお知らせ”.
https://iss.ndl.go.jp/information/2018/06/28_announce_jpro/ (参照 2019-10-2).
- [3] 日本図書コードの後半に付いている、「C」に続けて4桁で表される分類記号。記号の体系については、次の文献の42ページから50ページをご覧ください。
ISBNコード/日本図書コード/書籍 JANコード利用の手引き. 2010年版 ホームページ版(2019年1月改訂版), 日本図書コード管理センター, 2019, 58p,
<https://isbn.jpo.or.jp/doc/08.pdf>, (参照 2019-10-2).

NDL 書誌情報ニューズレター(年4回刊)

2019年4号(通号51号) 2019年12月26日発行

編集・発行 国立国会図書館収集書誌部

〒100-8924 東京都千代田区永田町1-10-1

E-mail: bib-news@ndl.go.jp (ニューズレター編集担当)